

■シャンプー

◇シャンプーイングの目的

- ・頭皮および毛髪の汚れを洗い落とし、清潔に、かつ美しくする。
- ・他の美容技術が容易に行えるような基礎をつくる。
- ・頭皮や毛髪の性状に応じて、それぞれに適した技術を行い、スカルプマッサージなども併用して、血行促進をはじめとする生理的なはたらきを助け、毛髪の健康な発育を促す。
- ・快感を与え、心身のリラクゼーション効果を高める。

◇目的別のシャンプーイング

- ・1回目のシャンプー・・・予洗い
- ・2回目のシャンプー・・・本洗い
- ・パーマントウェーブ及びヘアカラー施術前のシャンプー・・・1回目のシャンプーのみ行い、頭皮をこすらないよう柔らかいタッチで行うようにする。
- ・ヘアカラー後のシャンプー（アフターシャンプー）・・・薬液をていねいに取り除き、汚れも洗い流す。

◇シャンプー剤の種類と選び方

- 洗淨効果を主としたシャンプー剤・・・脂性の頭皮および毛髪に使用する。油成分の配合が少なく、洗淨力強
- コンディショニング効果のあるシャンプー剤・・・乾性の頭皮及びダメージした毛髪のコンディションを整える
目的で用いられる
※パーマやカラーによって水分が過剰に失われた乾燥毛に適しており、
洗淨力を多少抑えて、コンディションを整えるのが特徴。
- ヘアカラー用シャンプー剤・・・ヘアカラーの施術後、またはヘアカラーを繰り返している毛髪に用いる、
弱酸性のシャンプー剤。
- 抗ふけ効果のあるシャンプー剤・・・ジंकピリチオンなどが配合されているフケ取り用。
- 清涼感のあるシャンプー剤・・・メントールが配合されている、トニックシャンプー。
- スカルプシャンプー剤・・・頭皮のコンディションを整える

◇シャンプーイングの際の注意

- ・毎日シャンプーしても、適切な洗い方で適量のシャンプーを使用すれば、洗いすぎることはない。
- シャンプーに使用するお湯の温度は、ふつう38～40度が適温
- 毛髪は水分を吸収して膨潤しているので、毛髪を強くこすり合わせてシャンプーすると、毛小皮をいためる。
- パーマやカラーの前にシャンプーを行なう場合は、頭皮を刺激するような成分の含まれるシャンプー剤を用いるのは控える。頭皮をこするなどして刺激を与えないように気をつける。
- シャンプー剤は、一度に多量に使ってもさほどの効果はなく、かえって毛髪を傷める原因となることがあるので
使いすぎないように注意

■サイドシャンプーとバックシャンプー

- ・サイドシャンプー・・・お客様やシャンプーボウルの左側に立ち、シャンプーを行う。
フェイルマスクを使用する。
- ・バックシャンプー・・・お客様やシャンプーボウルの後ろに立ち、シャンプーを行う。

フェイスマスクを使用する必要がない。

サイドシャンプーよりも、お客様の首への負担が少ない。

バックシャンプーはサイドシャンプーに比べて、ネープが洗しやすい。
両手でしっかり洗うことができる。

反面、耳の後ろなどの洗い残しがちな部分もあるので注意

■リンス・コンディショナー・トリートメント

◇リンス・コンディショナー・トリートメントの違い

- ・リンス・・・・・・・・毛髪に柔軟性と光沢を与える
- ・コンディショナー・・・・・・・・高い保湿力、ツヤや潤いを与え、毛髪の表面に働きかける
- ・トリートメント・・・・・・・・損傷した毛髪の損傷修復効果もある

◇シャンプー剤 と リンス・コンディショナー・トリートメント剤の成分と特徴

- ・シャンプー剤・・・・・・・・アニオン界面活性剤 ⇒ 洗浄力があり、泡立ちのきめ細やかさ豊かさ、低刺激などの特徴
- ・リンス・コンディショナー・トリートメント剤・・・・・・・・カチオン界面活性剤 ⇒ 毛髪の表面に被膜をつくる、静電気を防止

◇カチオンポリマー

カチオン界面活性剤と同じく、毛髪表面に被膜をつくる。

※カチオン界面活性剤よりも毛髪に長く残るため、より高い効果が得られる。

◇加水分解コラーゲン（PPT）

- ・成分としてアミノ酸があり、損傷によって流れ出たタンパク質を補う役割

※PPTトリートメントは高濃度配合のポリペプチドが毛髪に吸着し、補修作用にすぐれている。

修復作用にすぐれている。

（オイルトリートメントは加温して使用するものが多く、損傷部分に塗布して熱をあたえることにより、浸透が促進され油分が補われる。）

◇リンス剤の種類と選び方

- 酸性効果のあるリンス剤・・・・・・・・パーマやカラー施術後で毛髪のpHがアルカリに傾いているような毛髪に使用

※酸性効果のあるリンス剤を用いて、毛髪を本来の弱酸性の状態に戻すことが必要

- 殺菌効果のあるリンス剤・・・・・・・・ジंकピリチオンなどが配合されたリンス剤はフケ症の頭皮に適する

☆カチオン界面活性剤は被膜をつくるので、コールドウェーブの中間リンスには用いるべきでない。

◇毛髪が痛む原因

- ・脱脂力の強いシャンプー剤の連用
- ・パーマメントウェーブ用剤の連用
- ・強力なブリーチ剤の連用
- ・アルコール含有量の多いトニックまたはセットローションなどのスタイリング剤の使用
- ・ドライヤーで熱風を長時間毛髪に当てる
- ・ブラッシングおよびバックコーミングの乱用
- ・カッティング技術の未熟

◇ヘアトリートメント技術の一例

- ・ニーディング・・・手のひらの中で毛髪を包み込むようにしてもみこむ
- ・フィンガースルー・・・手でストランド（毛束）をにぎるようにして（もしくは、人差し指と中指でストランドをはさみ）、両手で交互にスルーする。
- ・スクランチ・・・ストランドを軽く持ち上げ、ゆっくり握るようになじませる。
(ウェーブヘアのカールを壊さないようにしてなじませる)

■ブラッシング

◇ブラッシングの目的（ブラッシングはどの部分も生え際からつむじに、根元から毛先に向けて行う）

- ・毛髪の汚れを除去
- ・マッサージ効果によって頭皮の新陳代謝を促す
- ・刺激と快感を与えて美容効果を高める
- ・毛髪のもつれをほぐし、抜けるべき毛髪をすき取り、新しい毛髪の発生を促す

■スカルプトリートメント

スカルプトリートメントとは、頭皮（スカルプ）の手当て（トリートメント）という意味。

◇目的

頭皮および毛髪を健康に、かつ美しく保つために行われる。

※スカルプトリートメントは、多くはシャンプー技術およびヘアトリートメント技術と併用される。

◇スカルプトリートメントの分類

- ・物理的方法・・・頭皮に物理的な刺激を与える。（ブラシ、スカルプマッサージ、スチームタオル、スチーマーなど使用）
- ・科学的方法・・・頭皮および毛髪の生理機能を健康に保持する。（ヘアトニック、スカルプトリートメント剤などを使用）

◇スカルプトリートメントの種類

- ノーマルスカルプトリートメント・・・頭皮が正常な状態のとき、その状態を維持する為
- ドライスカルプトリートメント・・・皮脂が不足して、頭皮が乾燥している状態の時に進行
- オイリースカルプトリートメント・・・頭皮の皮脂の分泌が過多の場合に行う
- ダンドラフスカルプトリートメント・・・フケ除去のために行う

■スカルプマッサージ

頭皮に対してのマッサージ

- ・軽擦法・・・手掌、四指、母指などを用いて、軽くこする
- ・強擦法・・・皮膚を押さえながら強くこする。
- ・揉撚法・・・手掌で筋肉をにぎり四指と母指を用いてもみほぐす。
- ・振動法・・・指先だけでなく腕全体で振動を与える
- ・叩打法・・・タッピング ⇒ 指の掌面を用いて、頭をはじくように叩打
ハッキング ⇒ 両手の指間を開け、手掌の外側面で軽く交互に叩打
カップリング ⇒ 手掌をくぼませて両手を軽く握り、手の甲で頭、首、肩をリズムカルに叩く
ビーディング ⇒ こぶしで叩打する

■ヘッドスパ

ヘッドスパとは従来のスカルプトリートメントより一歩踏み込んで、ツボマッサージや専用の用剤を使用し、育毛促進のための頭皮環境の改善やリラクゼーションに重きをおいた、メニューである。